

JALS 4 テンプレート(MS明朝14, 太字)

(1行空ける)

執筆者名(MS明朝10.5)

所属(MS明朝10.5, 斜体)

筆頭著者のe-mailアドレス(Times New Roman 10.5)

共同執筆者名 (MS明朝10.5)

所属(MS明朝10.5, 斜体)

要旨(MS明朝10.5, 太字)

英語150語以内で論文の概要を書いてください。インデントはせず、一つのパラグラフにまとめてください。要旨には研究目的、必要に応じて被験者情報や実験結果の記載、論文全体の結論などを記載します。要旨は、読者を論文に引き込むためにも魅力的な内容でなければなりません。要旨の後、1行空けてキーワードを書きます。

Keywords: キーワード5個まで、コンマで区切ること

キーワードの後、2行空けて本文を書きます。序論には「はじめに」などの見出しが付けません。序論をセクションに分ける場合は、各セクションに小見出しを付けます。小見出しの付け方については下記を参照してください。詳細はAPA第7版を参照してください。

大見出し(MS明朝, 太字)

大見出しが太字で、ページ中央に記載してください。大見出しの後は行を空けないで次行から書いてください。さらにセクションに分ける場合には小見出しを付けます。小見出しが行を空けずに、本文の左端にそろえて太字で記載してください。小見出しがそのレベルによって書き方が異なります。見出しが関する詳細はAPA第7版で確認してください。

小見出し(MS明朝, 太字)

本文中で論文を引用する際、引用箇所の最後に著者名と出版年をカッコ内に記載する方法 (Smith, 2020), Smith (2020) のように著者名と出版年を引用文の一部として扱う方法があります。一つの文献の著者が3人以上の場合は et al. を使用してください (Jones et al., 2018)。カッコ内に2つ以上の引用文献を併記する場合は、文献の著者名をアルファベット順に記載してください (Johnson, 2015; Smith, 2020)。

著者名は直接引用を控え、可能な限り間接引用にしてください。直接引用が適切だと思われる場合は、正確に転記し、Smith(2020, p. 15)のように引用した文献のページ番号を記載してください。

引用が3行以上におよぶ場合は、別段落として記載してください。すべての行の左端をインデントして引用し、引用の最後に、引用文献のページ番号を含めてカッコ内に表記してください (Smith, 2020, p. 15)。引用の後1行空けて本文を書きます。

ここに引用します。これは3行以上の直接引用の例です。参考にしてください。

ここから本文を書きます。これ以降は本文の記載内容です。○○○○* * * * * * * * * * * ○○○○○○
* * * * * * * * * ○○○○○○

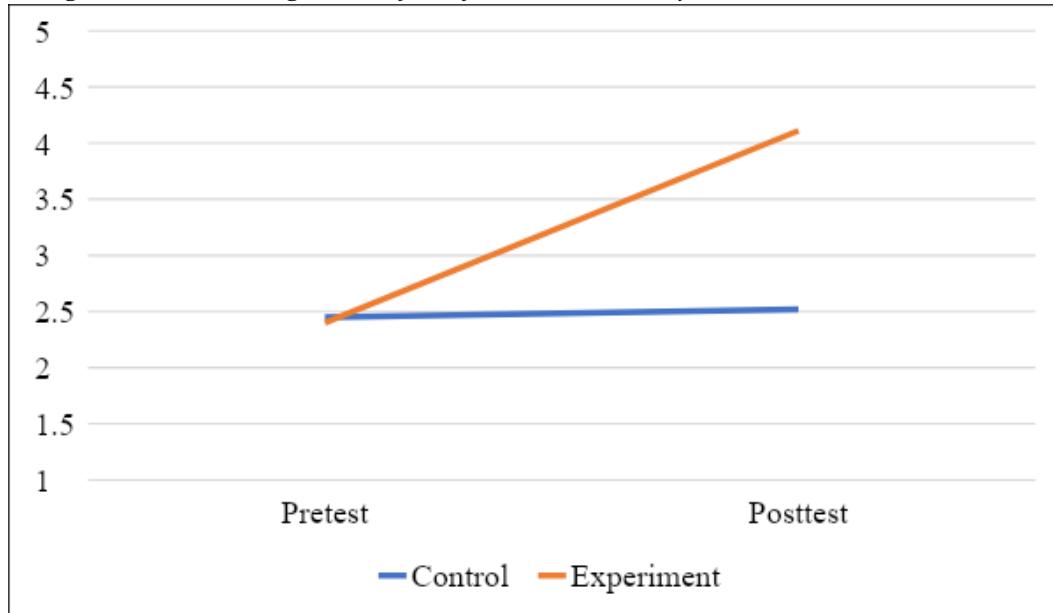
図表

本文中の図表の作成と提示方法はAPA第7版に準拠してください。図表にスクリーンショットは使用しないでください。

図の上に図番号とタイトルを記載します。図の番号は太文字、図のタイトルはイタリック体で記載してください。記載例として図1を参照してください。他の論文から図を転載する際には、必ず出典を明記してください。図に色を使用してもかまいません。

1

Changes in Students' Linguistic Self-Confidence in this Study



表の作成と提示方法については、表1の例を参考にしてください。表の上に表番号とタイトルを記載します。表番号は太文字、表タイトルはイタリック体にします。表中の数値は、セルの書式を「上部、中央」の位置に設定してください。詳細はAPA第7版を参照してください。

表 1
Overview of the Participants in this Study

Group	Number	Age	Confidence	Years studying English
Control	35	18.34	2.45	6.78
Experiment	36	18.45	2.40	6.92

Note. Confidence was measured on a scale of 1 to 5, with 1 being very low and 5 being very high.

参考文献(MS明朝、太字)

本文中に引用した出典のみを全て参考文献に記載してください。英文の文献については、字体と大文字の使用箇所に注意してください。ページ番号を記載する際は、ハイフン(-)ではなくenダッシュ(–)を使用してください。引用論文にdoiが割り当てられている場合は、doiを記載してください。doiが割り当てられていない電子出典については、URLを正しく記載してください。以下は書式の一例です。詳細はAPA第7版を参照してください。

<単著書籍>

- Author, A. A. (1967). *Title of the book*. Publisher.
 大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則. (2002). 『言語研究入門—生成文法を学ぶ人のため』研究社.
 Johnston, P. H. (2012). *Opening minds: Using language to change lives*. Stenhouse Publishers.
 安井泉. (1992). 『音声学』開拓社.

<単著書籍の章>

- Ushioda, E. (2013). Foreign language motivation research in Japan: An ‘insider’ perspective from outside Japan. In M. T. Apple, D. Da Silva, & T. Fellner (Eds.), *Language learning motivation in Japan*, (pp. 1–14). Multilingual Matters.

<編著>

- Editor, A. A. (Ed.). (1986). *Title of the book*. Publisher.

<単著論文>

Author, A. A. (2020). Title of the work. *Title of the Journal, volume number*(issue number), page–page. <https://www.xxxxxx>

濱田彰. (2018). 「データ駆動型学習と英文構造の可視化によるライティング指導のアクションリサーチ」*ARELE: Annual Review of English Language Education in Japan*, 29, 305–320. https://doi.org/10.20581/arele.29.0_305

宮迫靖靜. (2002). 「高校生の音読と英語力は関係があるか？」*STEP BULLETIN*, 7, 13–27. Retrieved from https://www.eiken.or.jp/center_for_research/pdf/bulletin_archives/vol_14.pdf

Yashima, T. (2002). Willingness to communicate a second language: The Japanese EFL context. *Modern Language Journal*, 86, 54–66. <https://doi.org/10.1111/1540-4781.00136>

<共著論文>

Author, A. A., Author, B. B., & Author, C. C. (1967). Title of an article. *Title of the Journal, xx(x)*, page–page. <http://doi.org/10xxxxxxxx>

Cavazza, N., Guidetti, M., & Pagliaro, A. (2015). Who cares for reputation? Individual differences and concern for reputation. *Current Psychology*, 34(1), 164–176. <https://doi.org/10.1007/s12144-014-9249-y>

Lou, N. M., & Noels, K. A. (2016). Changing language mindsets: Implications for goal orientations and responses to failure in and outside the second language classroom. *Contemporary Educational Psychology*, 46, 22–33. <https://doi.org/10.1016/j.cedpsych.2016.03.004>